

# 「くまの木」ヒトとムシの楽園プロジェクト

会報ムシプロ11号

2018年1月



ムラサキシジミ

## 目次

1. 2017年活動まとめ . . . . . 2
2. ムシプロだより . . . . . 4
3. 自然の楽しみ方（冬） . . . . . 5
4. 事務局より . . . . . 7
- 今月の表紙 . . . . . 7

## 1. 2017年活動まとめ

2017年の活動の実績です。

### <活動実績>

2017年は、活動を5回行いました。このうち2回は宿泊を伴う一泊二日の活動でした。

活動は、作業と観察・講習で構成しています。作業については、バタフライガーデンと第二ビオトープの整備が中心となりました。観察・講習に関しては身近な自然との触れ合いを中心としながら自然林の散策、自炊体験も実施しました。

活動日、活動内容、参加人員は下表のとおりです。

活動日	作業	観察・講習	参加人数	スタッフ
4月8日(土)	・バタフライガーデンの整備(移植) ・第二ビオトープ整備(畔の整備)	早春の雑木林(カタクリの花)	11名	7名
6月10日(土)~11日(日)	・バタフライガーデンの整備(草取り) ・ヒヤクニチソウの植え付け	・モリアオガエルの産卵 ・ビオトープの生き物	11名	5名
7月8日(土)	・第二ビオトープ整備(草取り)	県民の森散策(自然林の散策)	9名	5名
9月9日(土)~10日(日)	・第二ビオトープ整備(草取り) ・菜の花、レンゲの種まき	鳴くムシ、赤トンボ	7名	4名
11月25日(土)	・木の葉さらい(カブトムシ産卵づくり)	・冬越しのムシ ・エコストーブを使った昼食づくり	12名	6名

### <活動の様子> 作業に汗を流し、生き物の鼓動を感じました。

	4月	6月	7月	9月	11月
作業					
観察・講習					

### 頑張りました!



## ■ 気づき、成果

今年も第二ビオトープでタガメ（絶滅危惧種）が繁殖しました。



7月 第二ビオトープで採集したタガメの幼虫



9月 第二ビオトープで採集したタガメの成虫

整備のため、水を抜いたビオトープでドジョウ、小型のゲンゴロウ、ガムシが泥の中で生きていました。



## ■ 課題

- ① 花壇・ビオトープの雑草対策
- ② 夏の観察場所として適した雑木林
- ③ スタッフの育成

## ■ トピックス

活動を始めて7年目となり参加登録されている皆様とよりコミュニケーションをとることを目的として会報を発行することにしました。

内容は、活動前の予習、活動報告、近況報告、自然の楽しみ方です。

会報の発行実績は、下表のとおりです。

### 会報発行実績

年度	発行日	号	月	表紙	活動報告	ムシプロ日より	自然の楽しみ方
2017年	2月末	1	3月	アオジ	年間計画	スタッフMtg	冬・早春編 ムシたちの冬;カマキリの卵
	3月末	2	4月	カタクリ	4月活動予習	・4月活動の下見 ・近況(大原)	春編 鳥たちの春(冬とともに去る):ジョウビタキ ムシたちの春(待ちわびた陽光):キタテハ
	4月末	3	5月	ギンヤンマ	4月活動報告	近況(遠藤)	春編 鳥たちの春(水ぬるむ):コサギ、ダイサギ ムシたちの春(恋の季節):ホリミオツネントンボ
	5月末	4	6月	ゴマダラチョウ	6月活動予習	近況(吉田)	春編 ムシたちの春(藤だなの番人):クマバチ
	6月末	5	7月	オオムラサキ(吉田)	・6月活動報告 ・7月活動予習	近況(高野)	梅雨・夏編 ムシたちの夏(夏空に舞う①):アゲハ、アオスジアゲハ、ゴマダラチョウ、コムシジ
	7月末	6	8月	タマムシ	7月活動報告	近況(伊村)	夏編 ムシたちの夏(樹液を巡る戦い①):オオムラサキ
	8月末	7	9月	ミヤマアカネ	9月活動予習	近況(西野)	夏編 ムシたちの夏(トンボ博士になろう①)
	9月末	8	10月	アサギマダラ(遠藤/小野)	9月活動報告	近況(小林)	秋編 ムシたちの秋(草むらの獵師):カマキリ
	10月末	9	11月	アゲハとヒガンバナ	11月活動予習	近況(坂口)	秋編 ムシたちの秋(最強のハンター):スズメバチ
	11月末	10	12月	オオアイトトンボ	11月活動報告	近況(高橋)	晩秋・初冬編 たかのなおこのワイ織屋広場①:アケビコノハ
2018年	12月末	11	1月	ムラサキシジミ	2017年まとめ	近況(武田)	冬編 ムシたちの冬(テントウムシのサンバ):ナミテントウ



## 2. ムシプロだより

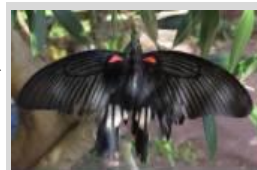
### 武田 典道さん、飛鷹さんの近況



私たち親子が初めてクマの木に参加したのは3年前、ひだかが小学校5年生の頃でした。生き物や自然に対する熱い思いを共感できる皆さんとの出会いは、ひだかにとってかけがえの無い大切なものとなりました。

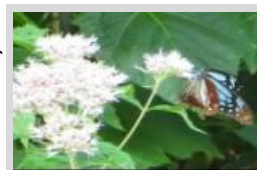
ムシプロ開催日には毎回ワクワクしながら塩谷町に向かっています。来年もまた楽しみにしています。

昨年の夏、自宅の庭で赤い点のある大きな黒い蝶を見つけました。気になって調べてみると、本来茨城県にはいないナガサキアゲハでした。さらに詳しく調べたところ近年温暖化により徐々に北上していることがわかりました。これをきっかけに2000キロもの距離を移動する蝶“アサギマダラ”の存在を知り、自由研究の題材にしました。(By ひだか)



ナガサキアゲハ  
自宅の庭にて撮影

福島県の裏磐梯はアサギマダラが食草とするヨツバヒヨドリが群生していて観察をするにはうってつけの場所と知り、調査に行ってきました。



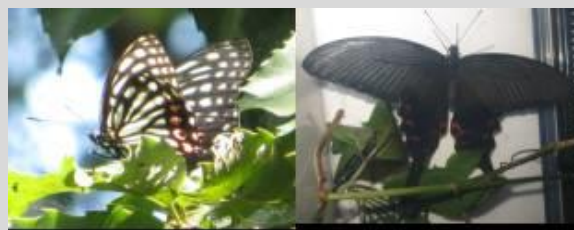
裏磐梯標高 1700m  
で撮影

右の写真は、ヨツバヒヨドリを吸蜜するアサギマダラです。この日はたくさんのアサギマダラを観察することができました。因みにこれらの写真はひだかが自分で撮影したものです。

クマの木のバタフライガーデンのフジバカマもアサギマダラの好物とのことで、みんなで浅葱色の翅を堪能できたらどんなに素晴らしいことでしょう。



↑スミナガシ    ↑サトキマダラヒカゲ  
筑波山山頂付近で撮影



↑アカボシゴマダラ    ↑オナガアゲハ  
牛久自然観察の森にて撮影

また、【あのつり橋のある川沿いの“魅惑のヤナギの木”】で会いましょう！！



(写真・文 武田典道・飛鷹)

### 3. 自然の楽しみ方（冬）

#### ● テントウムシのサンバ「ナミテントウ」

晩秋から初冬にかけて穏やかな晴天になる日を「小春日和（こはるびより）」という。厳しい冬を前に穏やかで暖かい日を喜ぶ表現だ。

この陽気に誘われてムシたちも現れる。その代表が「ナミテントウ」だ。名前にナミ（並）とついているが翅の模様は実に変化に富んでいて小さな変化も含めると100種類以上あるというのは並じゃない。

小春日和に陽気に誘われて集団で現れるのでこの時に翅の模様の変化を愉しみたい。

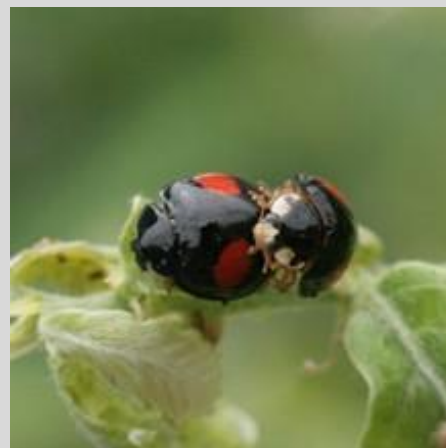
11月下旬、ナミテントウの集団が電信柱に現れた。よく見かける黒地に大きい赤い紋の模様以外に様々な模様を記録しようと夢中でカメラのシャッターを押していた。気が付くと体中にテントウムシが止まっていた（笑）。体中にムシが付いたのは、小学生の時、外灯に飛んでくるカブトムシ・クワガタムシを待っていた時以来だ。何処からともなく飛んできて暫く電信柱を歩き回ると飛び立つ、これを数え切れないほどのナミテントウが繰り返していた。この様子とりズミカルなテントウムシの羽ばたきの音が重なり「てんとう虫のサンバ（1973年チェリッシュ）」の歌詞を思い出した。

「赤、青、黄色の～衣装を着けたテントウムシがしゃしゃり出て～サンバにあわせて踊りだす～♪」

作詞者は、小春日和にナミテントウが集団で現れる光景を見たことがあるのかもしれないと思った。



電柱に群れるナミテントウ









黒地に大きな赤い紋のナミテントウ



テントウムシのサンバにカメムシも参加していた

ナミテントウの模様は多種多様であるが紋と翅の基本色で四つの型(二紋型、四紋型、紋型、紅型)に分けられている。

### 黒地に赤い紋

赤い紋が二つ(二紋型)	赤い紋が四つ(四紋型)	赤い紋が多数(紋型)
		
 赤い紋が欠けている	 赤い紋が崩れている	 三日月の赤い紋がある

### 紅地に黒い紋(紅型)

赤地に黒い紋	橙色に黒い紋	黄色に黒い紋
		
 紋がほとんど見えない		

(写真・文 西野 孝法)



#### 4. 事務局より

会報の「表紙」と「自然の愉しみ方」で紹介した画像をイメージゲートウェイに登録しています。Wordに貼りつけてある画像より綺麗です、ご覧ください。アドレスは以下のとおりです。パスワードは、必要ありません。

<https://opa.cig2.imagegateway.net/s/cp/DMCYuTBGLSE>

画像はダウンロードできます。

2018年1月1日発行

発行： くまの木ヒトとムシの楽園プロジェクト

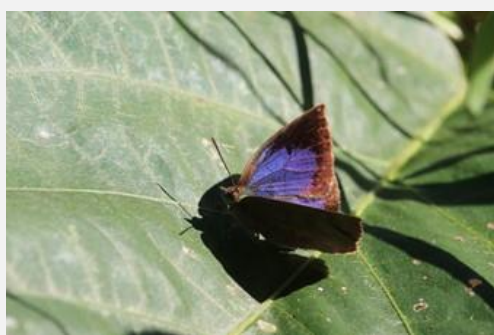
編集責任者： 西野 孝法

〒262-0026 千葉県 千葉市 花見川区瑞穂3-3-26

TEL: 090-9327-5606

Eメール：[harukan@ac.auone-net.jp](mailto:harukan@ac.auone-net.jp)

今月の表紙 ムラサキシジミ



「北風小僧の寒太郎」が千葉にもやってきた。それでも日が高くなるとムシが出てくる。天気の良い日に神社の周りを散策した。神社の周りの森は、保護されていてカシ・シイの木の太木がある。これらを好むムシとの出会いを期待したのだ。

神社の森に入ると早速「ムラサキシジミ」が出迎えてくれた。突然、目の前に飛んできて、翅を広げて日光浴を始めた。

陽が陰ると翅を閉じる習性があるので、手のひらで陽を遮り翅を閉じたり開いたりする様子を見て暫く遊んだ（笑）。

その後、この神社の森は古墳であることがわかった。ムシ探ししながら地域の歴史を知るのもまた楽しい。

(写真・文 西野 孝法)